

週 報

こひつじ

第41巻 34号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

試みてはならない

その三 毎日少しずつ

神が造られた自然界も同じで、毎日少しずつ規則的に動きながら、こう手紙で書いています。

大きな祝福を人類に与えている。「私は今、雑誌をつくるという古い同じことを繰り返しています。」

二宮尊徳は言った。

「おおよそ小を積みて大を致すは自然の道なり」

小さな事が積み重なって大きな事になるという意味だが、彼はその法則を自然の営みから学んだのである。

多くの著作を残した内村鑑三も、やはりこのまま続けることにしました。預言者エレミヤが彼の弟子

の歩みは堅実だった。彼は、あるとき、これまで長く書き続けていた『聖書の研究』と

いう雑誌をやめて、それとは別の『あなたは、自分のために大きな大きな仕事をやってみたいと思つた。ところが神はそれを禁じられレミヤ書四五の五』

私たちはみな、大事業を自分のために求めるのではなく、神の命じられたことを忠実にこなうべきなのだと思います」

こうして彼は、雑誌、『聖書の研究』を死ぬまで書き続けた。地味な仕事だった。だが、彼の書き残したものは、今も繰り返し出版され、多くの人に影響を与えている。

内村鑑三といえども、その人生は、自分に与えられた量りに応じた人生だったのである。

ニコラス宣教師は、大津の伝道を私にゆだねると、こう言い残してアメリカに帰って行った。

「英二、もしおまえがよい働きをしたければ、次々とやってくる新しい信仰運動に惑わされてはいけない。むしろ自分が遣わされたこの場所で、ただ自分に与えられた群れに心を留め、全力をつくして彼らのために奉仕するのだ。それがおまえの仕事だよ」

私は、おおかたその助言に従って五〇数年の伝道生活を送って来たように思う。

毎日少しずつが神の方法である。それが大きな働きにつながるのがある。一粒の滴がやがて大河となるように。悪魔はイエスを神殿の頂に立たせ、そこから飛び降りるように促した。神は天使を遣わし、イエスを守られるだろう。そうすれば、人びとは、それを見て驚き、信じようになるではないかと。だが、イエスは悪魔のその促しをきっぱり拒否なさった。十字架にかけられたイエスに向かって、

ありたいものだと思う。

教会から車で五分ほどゆくと広い田園地帯にでる。東に阿蘇の外輪山が見える。そこに私の早朝の散歩道がある。

私は二〇年以上も同じ道を歩きながら、毎年繰り返される稲や麦の成長をながめてきた。

植えられた苗、蒔かれた種は少しずつ成長し、そのうちに黄金色に輝き、豊かな実りをもたらすのである。

そこにあるのはセンサーシヨナルなものではない。地道な自然の営みである。これこそがほんとうの奇蹟なのではないだろうか。

(終)

今日の礼拝

○礼拝は午前一〇時半から。

○教会学校は午前一〇時半から。

○説教は豊田牧師夫妻。

○礼拝後、昼食交わり会。

豊田牧師夫妻紹介

豊田信行・かな夫妻は大阪の二

ユライフキリスト教会で奉仕さ

だきました。皆さんの忠実なさげものによって、長い間、教会は支えられてきました。心から感謝申し上げます。

著書も多くあります。『夫婦となる旅路』『父となる旅路』などです。妻のみなさんの本も人気です。『今日も新しい私に袖を通す』『女性の秋を生きる二人の往復書簡』などがよく読まれています。

次週（九月七日）の礼拝

○礼拝、教会学校はともに午前一〇時半から。

○説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は宮元隆博さん。説教は

マタイ八章から、百人隊長の信仰

が、なぜイエスにあれほどまでに

称賛されたのかについて語りました。

○礼拝のあと、最近三ヶ月の会

計報告がありましたので、「感謝の祈り」を西岡智子さんにしていた

富浦信幸牧師からの便り

米村先生、幸子さん

無事に生駒に着きました。途中、山口の実家に立ち寄ったので遅くなりました。

教会の改修・改造工事

「教会堂の内装工事」(詳細は先週の週報に記載)についてですが、前回大幅な補修工事をやって以来二年です。

建物の保存状態はよいので、今、また十分な補修をやっておくことは、将来のためによいのではないかと思います。

そのことについて先週の礼拝後、皆さんにはかりましたら、ほぼ全員の方から賛成の拍手をいただきました。感謝です。

セキスイの示した概略の予算額は約九六〇万円です。これから具体的に進められてゆくことかと思

います。また、逐次、ご報告させていただきます。お祈りください。

牧師のメールアドレス

yonemura@ja2.so-net.ne.jp